

Fw:東北 Fan Meeting

過去・現在・未来との対話を通じ、
復興と“サステナビリティ”を考える

久保 竜太

Iwate, The Last Frontier 共同代表／

株式会社かまいしDMC サステナビリティ・コーディネーター

INPUT TALK

久保 竜太 (Ryuta Kubo)

株式会社かまいしDMC サステナビリティ・コーディネーター
(その他、持続可能な観光の普及を目的とする非営利団体に所属)

【主な経験・専門性】

- ✓持続可能な観光の国際基準に関する実務 (2016～)
- ✓観光庁事業で京都市や二セコ町など5地区のサステナビリティ評価を支援 (2020)
- ✓全国約20地域以上のサステナビリティ評価を伴走 (2021～)

【公的委員等】

- ✓観光庁「持続可能な観光指標に関する検討会」メンバー (2019)
- ✓観光庁「持続可能な観光ガイドライン」アドバイザー (2020)

INPUT TALK

岩手県釜石市の持続可能な観光の取り組み

- ✓ 2017年に震災後の新たな「観光振興ビジョン」を策定
- ✓ 持続可能な観光（サステナブル・ツーリズム）の考え方の導入
- ✓ 持続可能な観光の国際基準を活用した管理手法の採用
- ✓ 日本初の国際認証取得を目指している
- ✓ 持続可能な観光が世界的な潮流になる前から自治体計画レベルで取り組んできた

株式会社かまいしDMC（KAMAISHI DMC Co., Ltd.）

- ✓ 岩手県釜石市の観光地域づくり法人（DMO）
- ✓ 2018年設立
- ✓ 旅行事業、地域商社事業、施設運営など事業展開
- ✓ 観光庁重点支援DMO認定(2020～)
- ✓ 観光庁長官表彰受賞（2021）



INPUT TALK

復興事業コーディネーターとして活動（2015年5月～2021年2月）

- ✓復興支援員制度に基づき、釜石市と業務委託契約を結んだコーディネーター
- ✓釜石リージョナルコーディネーター（通称：釜援隊）



持続可能な観光の国際基準（GSTC）

【正式名称】**G**lobal **S**ustainable **T**ourism **C**riteria

- ✓ グローバル・サステナブル・ツーリズム協議会(以下、GSTC)が開発し、管理・改訂を行なっている基準
- ✓ 持続可能な観光に向けて「最低限遵守すべき項目」として、特に国連加盟国での遵守が求められている
- ✓ 基準は、観光産業向け（GSTC-I）と観光地向け（GSTC-D）の2種類



【観光産業向け】GSTC-Iの基準項目

A:持続可能なマネジメント

- A1. 持続可能な経営管理
- A2. 法の順守
- A3. 報告と伝達
- A4. 従業員の参画
- A5. 顧客の経験
- A6. 正確な広告宣伝
- A7. 建築物およびインフラ整備
- A8. 土地・水の権利および所有権
- A9. 情報および解説
- A10. 地域への参画

B:社会経済のサステナビリティ

- B1. 地域支援
- B2. 地域雇用
- B3. 地元での購入
- B4. 地元事業者
- B5. 搾取およびハラスメント
- B6. 機会均等
- B7. 適正な雇用
- B8. 地域サービス
- B9. 地域住民の生活

【観光産業向け】GSTC-Iの基準項目

C:文化的サステナビリティ

- C1. 文化間の相互関係
- C2. 文化遺産の保護
- C3. 地域文化や遺産の提示
- C4. 考古学的な工芸品

持続可能な観光という概念を
因数分解したものが国際基準

D:環境のサステナビリティ

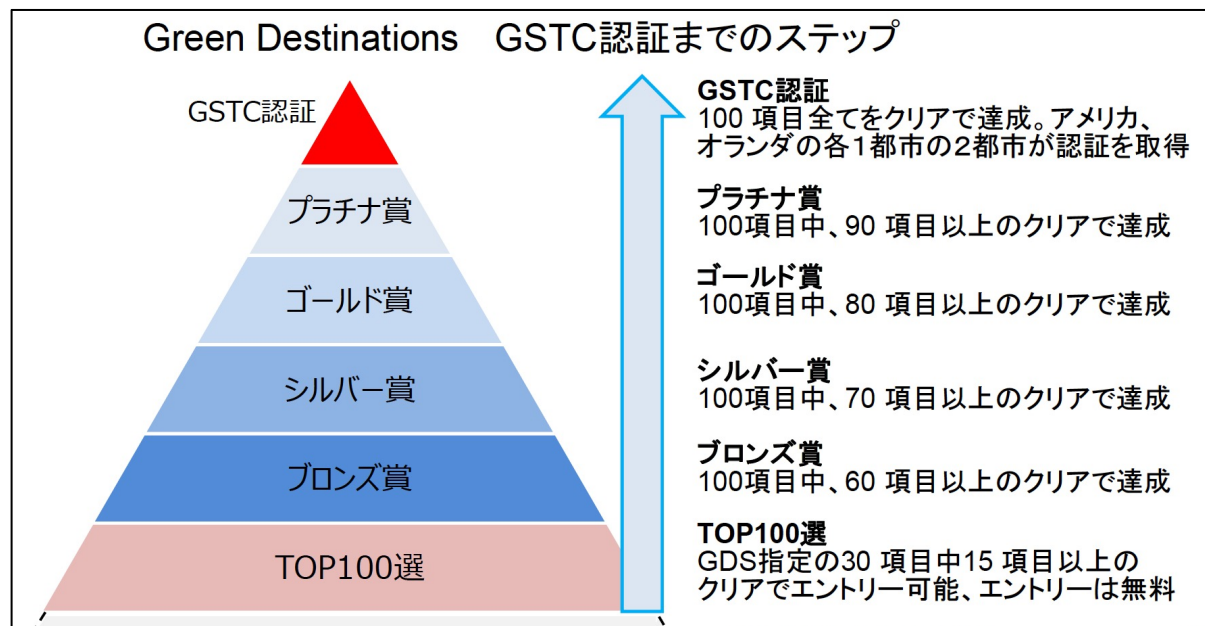
- D1. 資源の保全
 - 1.1. 環境に配慮した購入／1.2. 効果的購入／1.3. 省エネルギー／1.4. 節水
- D2. 汚染の削減
 - 2.1. 温室効果ガスの排出／2.2. 輸送手段／2.3. 廃水／2.4. 固形廃棄物／2.5. 有害物質
- D3. 生物多様性、生態系、景観の保全
 - 3.1. 生物多様性の保全／3.2. 外来種／3.3. 自然地域への訪問／3.4. 野生生物との接触／3.5. 動物福祉／3.6. 野生生物種の採集および交易

持続可能な観光の認証制度・表彰制度

- ✓ GSTCにより認定等を受けた第三者機関が提供するプログラム
- ✓ 宿泊施設、旅行会社、観光地を対象に認証ラベルや表彰ラベルを付与する様々なプログラムがある
- ✓ 評価項目はGSTCに準拠しつつ、各機関によってオプション項目の追加や構成の変更などが加えられ、項目の合計数も各機関により異なる



グリーン・デスティネーションズの観光地認証



- ✓ GSTCの認定を受けている認証機関
- ✓ 欧州を中心に世界各国の観光地を対象とした認証プログラムを運営
- ✓ 段階的な格付けの表彰プログラムが特徴
- ✓ 「世界の持続可能な観光地100選」（通称：TOP100）へのエントリーが最初のステップ

岩手県釜石市の受賞歴

2018年

「世界の持続可能な観光地100選 2018」選出

2019年

「世界の持続可能な観光地100選 2019」選出

「Green Destinations Award」ブロンズ賞受賞

2020年

「Sustainable Destinations Award」

アジア太平洋部門シルバー賞受賞

「世界の持続可能な観光地100選 2020」選出

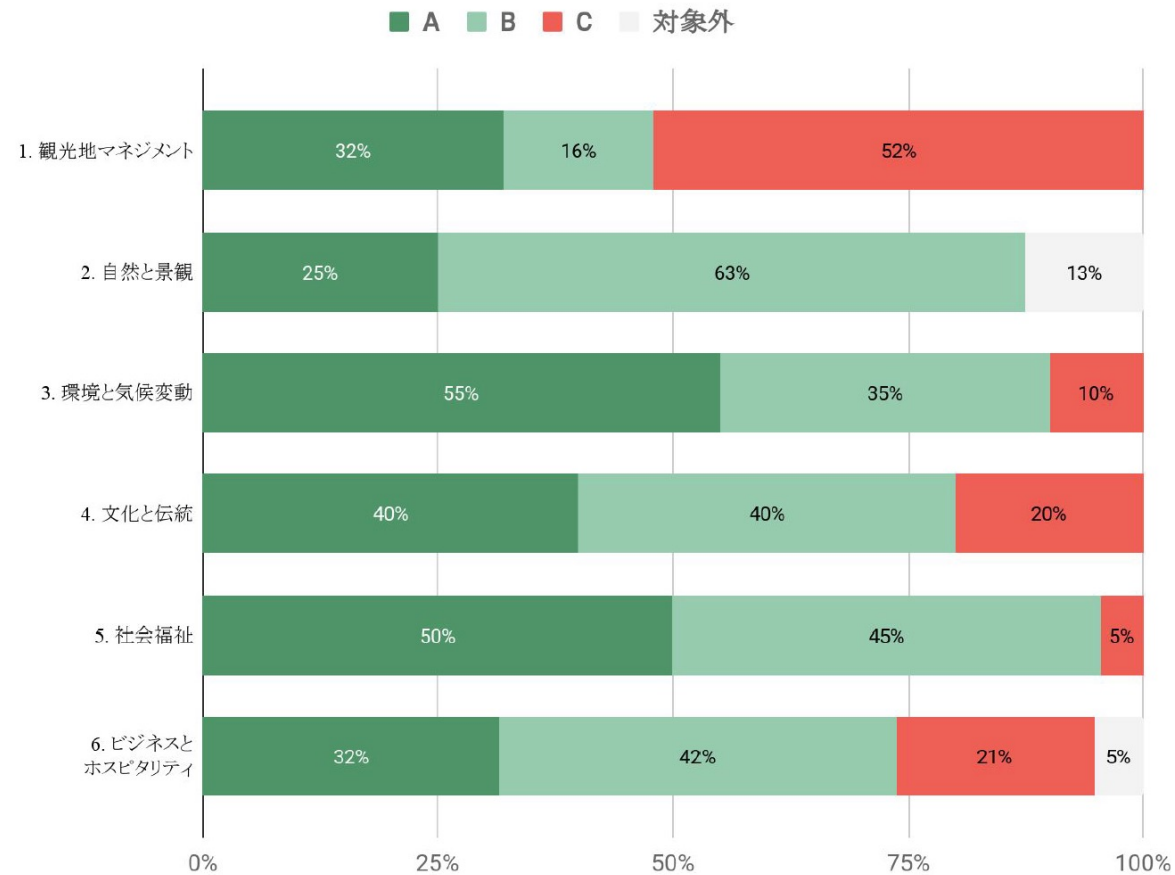
2021年

「世界の持続可能な観光地100選 2021」選出



国際基準に基づく釜石市の評価結果

5.2. 集計結果

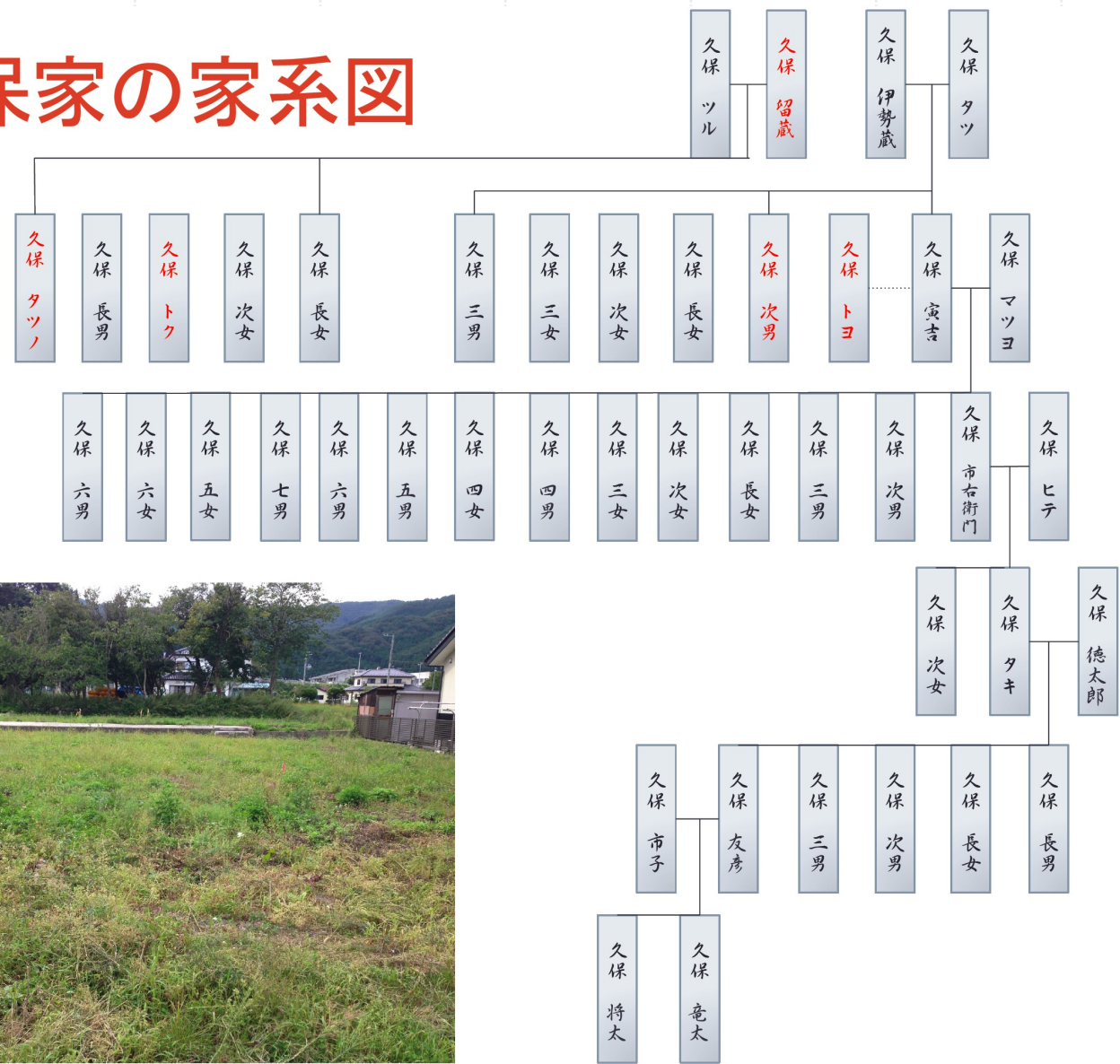


復興とは何か、という問い

- ✓ 震災の翌朝、妻と共に釜石入り。現実とは思えない壮絶な10日間を過ごす。死を覚悟する瞬間もあった。この10日間で、人生観が大きく変わる。
- ✓ ひと段落着いた頃、たまたま手に取った「三陸海岸大津波」という書籍で、三陸で周期的に繰り返してきた津波の歴史を知り、衝撃を受ける。なんでもなかったただの田舎だと思っていた自分の故郷が、破壊の宿命を背負う土地であることを知る。
- ✓ なぜ先祖はこの地で生きてきたのか、なぜ自分たちはこの地で生きていくのか、なぜ子孫はこの地で生きていくのか

INPUT TALK

久保家の家系図



東北という強烈なアイデンティティ

- ✓ 瓦礫に覆われた広場で、郷土芸能の虎舞を町の老若男女が真剣に眺めている状況を見て、突然これまでに感じたことのない感情の昂りを経験。
- ✓ 後に「民族的アイデンティティ」という言葉と出会い、あれは自分の中で民族的アイデンティティが強烈に湧き上がった瞬間だったのだ、と心から納得がいった。
- ✓ 三陸人というアイデンティティは、やがて東北人というアイデンティティへと拡張されて行く。
- ✓ 同時に、物心ついた頃から「東北生まれ」という出生にコンプレックスを抱いていたことに、初めて疑問を持つ。

東北人とは何か、という問い

- ✓ 東北の歴史を改めて学び直し、中央集権から侵略を受け続けてきた土地であることを知る。
- ✓ まつろわぬ民、鬼などと罵られ迫害されながら、郷土を守るために戦い抜いた先住民・蝦夷（エミシ）の存在。
- ✓ 中央集権により正当化された歴史。故に空白が多い東北の歴史。
- ✓ なぜ東北には動物や鬼など人ならざるものに扮する芸能が多いのか。今も狩猟採集民的な精神世界が息づいているのではないか。
- ✓ アニミズム、宮澤賢治の世界観。
- ✓ そして壮大な時間軸を持って歴史の彼方に広がる縄文の記憶。

INPUT TALK



“Iwate, the Last Frontier
A soulful journey in the land of Iwate”



IWATE, THE LAST FRONTIER

INPUT TALK



Iwate, The Last Frontierとは

- ✓ 岩手県内で観光や地域文化に関わるメンバーが結集し、始動したプロジェクト。
- ✓ 2020年復興庁「新しい東北」事業の助成を受けて開始。
- ✓ 内なる視点によって、未だ描かれたことのない真の岩手を描き出すことで、岩手の人々の誇りを呼び覚ますことを目的としている。
- ✓ 縄文や蝦夷などの忘れられた物語に光を当てながら、ツーリズムやアートなど、幅広く活動を行なっている。
- ✓ 現在はプロジェクトチームだが、法人化し、自主事業を積極的に展開していく予定。

INPUT TALK

2020年コンセプトミーティングの様子



県内各地で活動するメンバーが
”岩手”を表すキーワードを出していった

INPUT TALK

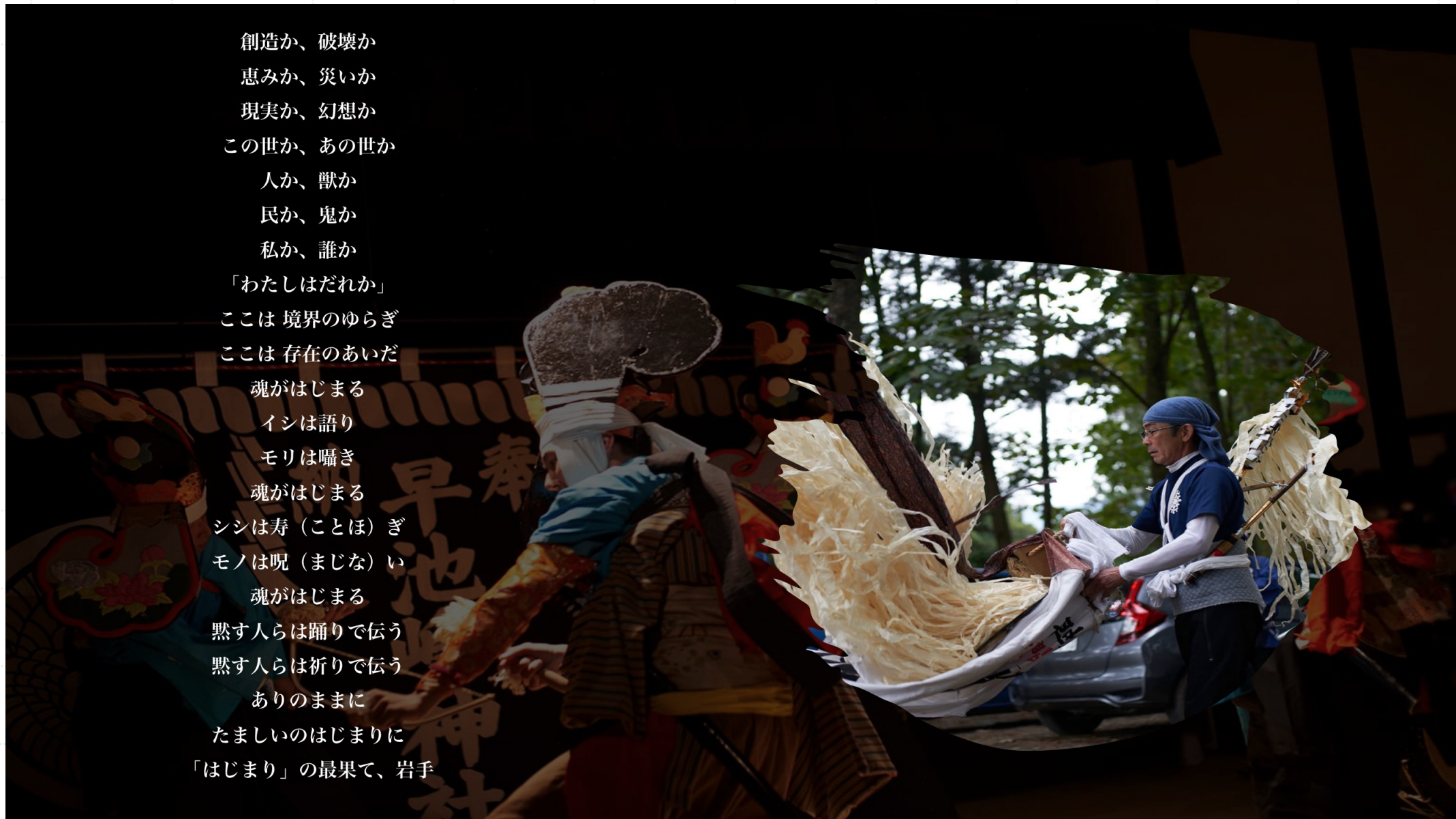
岩手らしさや魅力を表すキーワードやセンテンス

津波「ヨダ」
とは、
まがまがしさ
恐怖 絶望
おそれ、うやまう

- * 逆説...ここが「ヤダ」から縛り出す
- ・ 厳しい自然環境で生きる
人たちの強さ
(土地を大切にしている)
 - ・ 権力がおろされた生産地
(中央)
日本の
 - ・ 地域ごとの踊り(祈り、厳しい世界に
対して)
 - ・ 外から言語化された岩手
(道奥、えみし、アテルイ、反逆者 etc.)
⇒ 内なる発信の大切さ
内なる言語の喪失、言語を取り戻す意義
 - ・ 角のない鬼 (勧善懲悪にはきまらない)
- 取り込んでいた傾りからのストーリーではない視点
- 昔あったすもな、今現代にもつなげる
- ・ 自分を忘られる
 - ・ 何かによって扱われる
 - ・ 自分は自分のものでいい何でもない
- 見守られている
- 全体の中分けられた一部一面(たまたまかわない、言わずもがな)
- 内なる 抑えこまれている(抑圧)
- 何が縛られている感 名前、東北
- ⇒ 紐とかない(折り下げない) 浸透、蓄積 解決しない(ありのまま) ⇒ 祭り、芸能
- 想像性を呼び込む余白 空白
- 謙遜 温かさ
- いくつかの境界線があるところ
- ミステリアス、祈り、人間界/自然界、魔界、境界線の揺らぎ、日常、非日常、カテゴリー化されない
- による再構築 (循環)
- 石(文明)、鉄、陸/海
- 大和朝廷/えみし
- さいの神
- 一体感、連帯感
- 自分一人神-自然の連動

INPUT TALK

創造か、破壊か
恵みか、災いか
現実か、幻想か
この世か、あの世か
人か、獣か
民か、鬼か
私か、誰か
「わたしはだれか」
ここは 境界のゆらぎ
ここは 存在のあいだ
魂がはじまる
イシは語り
モリは囁き
魂がはじまる
シシは寿（ことほ）ぎ
モノは呪（まじな）い
魂がはじまる
黙す人らは踊りで伝う
黙す人らは祈りで伝う
ありのままに
たましいのはじまりに
「はじまり」の最果て、岩手



Iwate, the Last Frontier OUR EXPERIENCES

BURIED PAST

いにしえの大地に葬られた暁の民族の叙事詩

「縄文、遙かなる日本の祖先」

新石器時代。かつて日本列島には、縄文人と呼ばれる先住民族が暮らしていました。縄文人は、1万年以上の長きにわたり平和的で持続的な社会を築き上げており、その時代は縄文時代と呼ばれています。

LIVING SPIRIT

静かなる人々のところに宿る黎明の火

「歌と舞の中に」

岩手の人々には、歌と舞を演じながら、神仏や精霊への祈りを捧げる芸能の風習があります。この芸能は、多くの場合、伝統的な祭りや儀式的場で演じられ、ふるさとや家族の平安を願い、五穀豊穡、祖霊供養、悪霊退散など様々な祈りが込められます。

NORTHERN WILDS

北方の霧をまといたる越境の審判

「山」

岩手の大地は、その大半を山地が占めており、岩手の中央を流れる大河をはさんで、二つの大きな山脈があります。

INPUT TALK



INPUT TALK

特別企画展

Iwate, the Last Frontier

— 辺境に差す はじまりの光 —

幾度も重ねられた自然との対話と「歴史」には登場しない無数の言葉たち
 辺境の地 岩手に確かに生き続ける物語を2人のアーティストとともに表現する特別展
 はじまりの光がいま新たな地平をひらく



岩手の若き郷土芸能の舞手や職人を時空を超えて映し出す「湿板光画」

『遠野物語』に登場する伝説の狐師を描いたイラストレーション

Everett Kennedy 五十嵐大介 Brown エバレット・ケネディ・ブラウン

我々は今、その闇にある光をつかもうとしている

遠野ふるさと村(遠野) いのちをつなぐ未来館(釜石) **入場無料** ※遠野ふるさと村は入材料が発生します
 (同時開催) 10/2 sat ~ 11/21 sun
 10/2 **10** 11/13 **11** 21
 遠野ふるさと村(遠野) こども本の森 遠野にてイラスト原画、湿板写真のガラスネガを特別展示

主催:Iwate, the Last Frontier/共催:一般社団法人岩手県会館/後援:岩手県、遠野市、釜石市、遠野市観光協会、ふまーいDMC、遠野ふるさと村、遠野文化友の会



INPUT TALK

オープニングトークイベント「辺境の地でそれぞれの目に映る”光”とは」(10月2日)



INPUT TALK

